

① アニミズム

東京建物日本橋ビル 3/16-4/5

山と都市は地続きである。

東京都唯一の山村である檜原村からスカイツリーの輪郭をなぞりながらこんな当たり前のことに気づかされた。かつての日本人は、石ころを見て遠くの山に思いを馳せた。

自然と共生する日本人の精神の働き、いわゆる「見立て」である。見立てにより、ぼくらの世界は豊かに拡張する。



大園彩芳 SAIHOU OZONO

いけばな草月流一級師範、現代華道家。日本伝統文化のいけばなを要素分解してモダンに再構築する作品を制作。「花」だけでなく「枝 / 木」や「異素材」を使った作品を得意とし、「人間が作り出す無機質な美しさ」と「自然が作り出す計算不可能な再現性の持たない美しさ」との融合に無限の可能性を見出している。第 103 回「草月新人賞」受賞 (2022 年)、第 1 回「草月優秀賞」受賞 (2024 年)、第 93 回「全日本いけばなコンクールいけばな大賞審査員特別賞」受賞 (2019 年)。



積彩 SEKISAI

2022 年に 3D プリント技術に特化したデザインスタートアップとして創業 (代表: 大日方伸)。社名は、造形と着彩の工程を分離せず、カタチを積み、つくりながら同時に調色をしていく 3D プリントならではの工程 (彩を積む) に由来する。“積彩”という新たなモノの作り方から、まだ誰もみたことのないようなモノ、ないし“モノの在り方”を構築することを試みるデザイン事務所。

② Travelogue

八重洲ダイビル 3/16-4/5

創造性は移動の距離に比例するとよくいわれる。旅に大層な理由なんて必要なくて、重要なのは、旅することによる感覚の変化なのだ。

普段の生活とは異なる環境に野ざらしにされると、自分の“当たり前”が覆される。そして、その体験を解釈することで、いつもの出来事も意味を帯び始める。



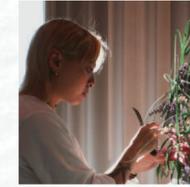
櫻井京櫻 KYOUOU SAKURAI

いけばな草月流師範、SYC 東京 1 幹事、JGS 日本園芸協会会員。季節の草花や自身の庭で育てた植物を用い、伝統的ないけばな技法を基盤に現代美術的アプローチで彫刻的作品を制作。生命の緊張と静寂を空間に立ち上げ、「存在」そのものを造形として提示する。

③ タイムライン

三栄ビル 3/16-4/5

わたしたちはつい時間を直線で考えてしまうが、時間には生成と消滅の連鎖が織り込まれている。ときに時間の方向感覚は曖昧になり、進んでいるのか戻っているのか、つくっているのか壊しているのかわからなくなる。圧倒されることもあるだろう。だが同時に、時間が直線でないとすれば勇気がわいてくる。目の前に見えているさまざまなものを諦めなくていいのだ。



李濟章 LEE CHI CHANG

植物インスタレーション作家、現代フラワーアーティスト。国際コンペティション「Theo Boerma Cup」優勝(2022年)。陰陽や五行思想(金・木・水・火・土)をコンセプトに、植物と日用品や工業素材など異素材を融合した作品を制作。土地の生活物や文化の痕跡を収集・観察し、それらを花藝へ再構築することで新たな意味を生み出す。花藝の既成概念を超える表現を探求している。



主催: Meet with Flowers 実行委員会



いけばなは衰退に向かう文化なんだろうか。この最高に面白い創作活動を少なくともぼくらは生涯続けていこう。

ぼくらにはロールモデルがいる。今から約 100 年前、自由な表現を求め、いけばな草月流を創始した勅使河原蒼風だ。

蒼風先生がそうだったように、冒険をおそれず、一つひとつの作品に自分の“イズム”を込める。

これが「いけばな」? そう思ってもらえたら、ぼくらはきっと正しい方向に向かっている。

『ism.』総合ディレクター
草月流師範/現代華道家 大園彩芳

それぞれのいけばな。 それぞれのイズム。



IKEBANA project

八重洲・日本橋・京橋(YNK)エリア各所



④ Breathing Tokyo

東京スクエアガーデン

都市は自然と対極の無機質な存在として語られるが、はたしてそうだろうか。アスファルトから透けて見える近郊の自然や、人の視線、異なる言語のリズム…現代社会のなかに繁茂する都市の「呼吸」。街歩きには山歩きに匹敵する五感の刺激があるはずだ。



深澤隆行 TAKAYUKI FUKAZAWA

アパレル業界を経ていけばなの道にはいる。アジア、アフリカのカルチャー、アニミズムに大きな影響を受け、生命の力を最大限まで導き出すことをテーマにしている。いけばなパフォーマンス集団「座・草月」座長としても活躍。2023 年から Flower Art Award の審査員を務める。「FLOWER-MODE AWARD (現、Flower Art Award) 最優秀作品」受賞 (2007 年)、フランス「アート・フローラル国際コンクール」に日本代表として出場 (2007 年)、第 94 回「草月新人賞」受賞 (2012 年)、第 100 回「草月最優秀作品賞」受賞 (2019 年)。

前期 3/23 - 3/28



石川遊雪 YUSETSU ISHIKAWA

草月流華道家。社会や都市の中の私たちの姿を生け花によって可視化する作品を制作している。「トーキョーワンダーウォール公募」入選 (2014 年)、「アジアデザイン・アートエキシビジョン金賞」受賞 (2018 年)、第 4 回「新しいいけばな主義グランプリ」受賞 (2023 年)。



井上千聖 CHISATO INOUE

いけばな草月流師範。オーディオ機器や音響技術に関するサービスを企画・プロデュースする傍ら、いけばな草月流師範としていけばな作品や空間美術を制作。電子機器などの無機物と、有機物の境界をひらく作品に挑んでいる。慶應義塾大学環境情報学部卒、桑沢デザイン研究所基礎造形卒。SYC 東京 1 幹事、Sony 華道部所属。

(五十音順)



渡部萩芳 SHUHO WATANABE

いけばな草月流師範、AI エンジニアとしての背景も持つ。環境問題やジェンダーなどの社会的テーマを扱う。第 2 回「Evolve Conceptual Art Exhibition」入選 (2024 年)、第 96 回「全日本いけばなコンクールいけばな大賞準特選」受賞 (2023 年)。

後期 3/30 - 4/5



今津友青 YUSEI IMAZU

華道家と庭師の二刀流。自然の理と人工構造を交差させ、植物の生命力を現代空間へ再構築する。第 18 回「AT 賞」受賞 (2019 年)、第 8 回「越後妻有大地の芸術祭」参加 (2022 年)、第 2 回・第 3 回「新しいいけばな主義」(2019 年・2022 年) 参加。



市川愛霞 ICHIKAWA AIKA

12 歳で草月流いけばなを始め、18 歳で師範資格取得。早稲田大学文化構想学部にてアートとカルチャーを幅広く学ぶ。第 99 回「草月新人賞」受賞 (2017 年)。第 2 回「新しいいけばな主義」参加 (2019 年)。虎屋菓寮赤坂・銀座、企業イベント等での空間演出を担当。



美樂 BIEI

華道家・文化起業家。伝統と現代を横断し、花で社会に問いを置く表現者。企業・行政・メディアとの文化プロジェクトを国内外で手がけ、空間演出とブランディングを展開する。